

組合員理事と役職員が 石川県珠洲市で「にっこにこ食堂」を開催

10月12日(日)、コープぐんまの組合員理事と役職員14名がボランティア活動の一環として1日限定のイベント「にっこにこ食堂」を開催し、群馬県名物「おっきりこみ」「焼きまんじゅう」の提供とゲームを行いました。イベントでの交流を通して被災地の皆さまの想いに寄り添う事を目的としました。

珠洲市は能登半島地震で特に被害が大きく、現在も仮設住宅にお住まいの方が多くいらっしゃいます。コープぐんまは一日も早い復旧・復興を願っています。



2025年度「未来つながり助成」 13団体へ助成しました

コープぐんまでは社会貢献活動の一つとして、県内で活動する13団体へ助成金を贈呈しました。助成金は団体の活動資金として活用いただき、組合員と地域の皆さまのより良いくらしづくりに役立てていただきます。

*助成希望団体は2025年6～7月に募集し、コープぐんまの社会貢献委員会で慎重に協議し選考しました。

【2001年度から取り組みを行い、
今年でのべ212団体、
1,153万円の寄付となりました】



10月21日(火)職業支援センターいせさきにて、贈呈式と交流会を行いました。

2025年度 未来つながり助成 助成団体一覧

団体名
性教育推進プロジェクト
日本語・学習支援教室VAMOS
NPO法人つながりサポート群馬
沼田読み聞かせの会
NPO法人利根沼田地域ボランティアセンター
NPO法人Mam's Style
劇団☆ASHITA
とねぬまた紙芝居研究会どんぐり
iroiro
WAがままごはん和み処
NPO法人あすしるべ
Plumeriaハレイ
碓氷ハイキングクラブ

組合員インタビュー企画「生協とともに」vol.11

コープぐんまは2026年に70周年を迎えます。

そこで、コープぐんまの組合員さんにインタビューをさせていただく企画「生協とともに」をすすめています。第11回は前橋市でくらしのたすけあいの会に所属する堀越さんにお話しを伺いました。



堀越さんがコープデリの宅配を始めたのは約40年前、結婚して現在の前橋市に引っ越したばかりの頃でした。当時はグループ(班)配達が主流で、組合員同士の関わりが深かった時代です。堀越さんが特に心に残るのは、親子で参加した「下仁田ミート」の見学会。「自分たちで作ったウインナーを後日届けてもらえて。おいしかったです。」と笑顔でお話しになりました。

堀越さんの活動は、「くらしのたすけあいの会」へと広がります。高齢や病気などで困っている地域の方を、組合員同士が相互扶助の精神で支え合う組織です。堀越さんも発足当初は賛助会員で、その後は「活動会員」として支援する立場で参加するようになりました。

くらしのたすけあいの会が目指すのは、「介護保険では手が届かないところ」への対応です。発足から29年、あくまで有償ボランティアとして、自分たちができる範囲で活動しています。例えば、庭の草取りや食品の買い出し・料理など、生活に密着した様々な依頼に応えています。高齢の方だけでなく、病気や障がいのある方、子育て中の方、時には「一日手伝ってほしい」という家事代行のような依頼もありますが、「あくまで助け合い、できる範囲で」と活動しています。

「様々な依頼に応えられるように、くらしのたすけあいの会では学習会や研修会を行っています。そうして依頼者の方に『助かったよ、ありがとう』と言われるととても嬉しいです。その気持ちが活動の原動力です」と語る堀越さん。コープデリを利用して家族の食卓を支え、活動を通じて地域の暮らしを支える。コープぐんまとともに歩んだ堀越さんの人生は、まさに「助け合い」の精神に満ち溢れています。

現在「くらしのたすけあいの会」は、一緒に活動を支えてくださる仲間を募集しています。「あなたのできる範囲で、誰かの役に立ちませんか」と明るい笑顔でお話される堀越さんがいつも元気に活動されますように。

今月で組合員インタビュー企画「生協とともに」を終了させていただきます。ご愛読ありがとうございました。



笑顔でお話しされる
堀越さん



全文は
こちらから